

工事番号																																		
																(様式－１)																		
															課 長					係 長					検 算					担 当				
令和 7 年度 道路メンテナンス事業 釜蓋橋補修工事 閲覧設計書																																		
市道明科4163号線																安曇野市 明科中川手																		
設 計 大 要																施 工 方 法								請 負										
橋梁補修工 橋長 L=28.5m 幅員 W=4.0m ひび割れ補修工 (低圧注入) L=166.6m 断面修復工 (左官工法) V=0.029m3 表面含浸工 A=116.6m2 水切り設置工 L=56.7m																施 工 期 間								115 日間										
																起工予定年月日								令和 年 月 日										
																竣工予定年月日								令和 年 月 日										
																契約保証方法								金銭的保証										
																・この資料は、入札参加資格者の迅速な見積に資するとともに、発注者が用いた積算資料を参考として提示するものであり、請負契約において何ら拘束力を生じるものではない。 ・諸経費等の条件については、原則変更協議の対象としない。																		

総括情報表

頁0-0002

事務所名 変更回数 適用単価区分 単価適用地区 実施設計単価表等の適用日	61 安曇野市 0 1 実施単価 50 1 1 中信（2） 07.10.01		
	当 世 代		前 世 代
前払率（%） 消費税率（%） 工種 施工地域区分(共通仮設) 施工地域区分(現場管理) 現場環境改善費率計上分 契約保証方法 豪雪割増 週休2日補正 冬期補正（現管）	40 10 % 10 橋梁保全工事 03 一般交通影響有り(2)-1 03 一般交通影響有り(2)-1 02 上記以外 01 金銭的保証 02 豪雪割増無し 09 週単位（土日） 824		

(工事費内訳書)

本工事費

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
本工事費						
橋梁保全工事						
			式			
橋梁補修工						
			式			
ひび割れ補修工						
			式			
低圧注入工法						
	1		構造物			工種 第0001号表
断面修復工						
			式			
左官工法						
	1		構造物			工種 第0002号表
表面保護工						
			式			
下地処理						
	117		m2			工種 第0003号表

(工事費内訳書)

本工事費

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
表面含浸工									工種 第0004号表	
	117		m	2						
橋梁地覆補修工										
				式						
水切り設置工									工種 第0005号表	
	57		m							
運搬処理工										
				式						
コンクリート殻運搬									工種 第0006号表	
	0.1		m	3						
コンクリート殻処分									工種 第0007号表	
	0.1		t							
任意仮設工										
				式						
足場									工種 第0008号表	
	179		m	2						
防護									工種 第0009号表	
	144		m	2						

(工事費内訳書)

本工事費

頁0-0005

費目・工種・種別・細別・施工名称など		数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
直接工事費											
現場環境改善費（率分）											
率 0.0188											
共通仮設費率計算額											
補正無の率 0.2732						補正後の率	0.3902				
共通仮設費計											
純工事費											
現場管理費											
補正無の率 0.6588						補正後の率	0.8244				
工事原価											

(工事費内訳書)

本工事費

費目・工種・種別・細別・施工名称など		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
一般管理費等	補正無の率 0.2202			前払率補正 1.0000			
				契約保証補正 0.0004			
工事価格計							
消費税等相当額計	率 0.1000						
工事費計							
(参考) 予定価格に占める法定福利費概算額	率 0.0387						

低压注入工法

工種明細表

工種 第0001号表

頁0-0007

[illegible]

左官工法

工種明細表

工種 第0002号表

頁0-0008

[illegible]

下地処理

工種明細表

工種 第0003号表

頁0-0009

[illegible]

表面含浸工

工種明細表

工種 第0004号表

頁0-0010

[illegible]

水切り設置工

工種明細表

工種 第0005号表

頁0-0011

[illegible]

コンクリート殻運搬

工種明細表

工種 第0006号表

頁0-0012

[illegible]

コンクリート殻処分

工種明細表

工種 第0007号表

頁0-0013

[illegible]

足場

工種明細表

工種 第0008号表

頁0-0014

[illegible]

防護

工種明細表

工種 第0009号表

頁0-0015

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0016

ひび割れ補修工（低圧注入工法）
1 構造物当り補修延べ延長 1 6 6 . 6 m

施工 第0 -0001号表

1 構造物 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	9.663	人			
特殊作業員	15.994	人			
普通作業員	11.829	人			
注入材	22.600	k g			
シーラ材	21.920	k g			
低圧注入器具	752.000	個			
諸雑費	6.000	%			
*** 単位当り ***	1	構造物			
1 構造物当り補修延べ延長区分：1 構造物当り補修延べ延長 2 5 m以上 1 構造物当りの注入材使用量（k g）：22.6 1 構造物当りの低圧注入器具使用量（個）：752			1 構造物当り補修延べ延長 L（m）：166.6 1 構造物当りのシーラ材設計量（k g）：16 注入材単価（円／k g）： 低圧注入器具単価（円／個）：		
シーラ材単価（円／k g）：					

施 工 内 訳 表

頁0-0017

断面修復工（左官工法）
鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理あり

1 構造物当り修復延べ体積0. 0 2 9m3

施工 第0 -0002号表

1 構造物 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	2.800	人			
特殊作業員	5.300	人			
普通作業員	2.800	人			
断面修復材	0.034	m 3			
諸雑費	8.000	%			
*** 単位当り ***	1	構造物			
鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無：鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理あり 1 構造物当り修復延べ体積 V（m 3）：0.029			1 構造物当り修復延べ体積区分：1 構造物当り修復延べ体積0. 1 m 3 未満 断面修復材単価（円／m 3）：		

施 工 内 訳 表

頁0-0018

表面含浸工
ケイ酸塩系

土木コスト情報参照

施工 第0 -0003号表

1 m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
含浸材塗布	1	m ²			
表面含浸材 ケイ酸塩系	0.25	k g			
*** 単位当り ***	1	m ²			

施 工 内 訳 表

頁0-0019

殻運搬

施工 第0 -0004号表

コンクリート(無筋)構造物とりこわし

機械積込 DID区間なし 5.7km以下

1 m3 当り

機械構成比： 40.77% 労務構成比：

44.82% 材料構成比： 14.41%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	40.77%	供用日		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		
運転手 (一般)	44.82%	人		運転手 (一般)		
軽油 小型ローリー パトロール給油	14.41%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
殻発生作業：コンクリート(無筋)構造物とりこわし DID区間の有無：DID区間なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				積込工法区分：機械積込 運搬距離：5.7km以下		

処分費（t）

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0005号表

100 t 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
処分費	100.000	t			
*** 合 計 ***	100	t			
*** 単位当り ***	1	t			
処分費（円／t）：					

足場
TYPE-A1

TYPE-A1

シート張

施工 第0 -0006号表

頁0-0021

1

$$\mathbf{m}^2$$

当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0022

足場工
桁高 1.5m未満

主体足場架設供用月数 2 月

施工 第0 -0007号表

1 m2 当り

[illegible]

安曇野市

朝顔
TYPE-B

TYPE-B

シート張

施工 第0 -0008号表

頁0-0023

1 m² 当り

[illegible]

安曇野市

施工内訳表

頁0-0024

施工 第0 -0009号表

1 m 2 当り

朝顏
両側朝顏

朝顔架設供用月数2月

[illegible]

安曇野市

施 工 内 訳 表

頁0-0025

シート張防護工（両側朝顔）

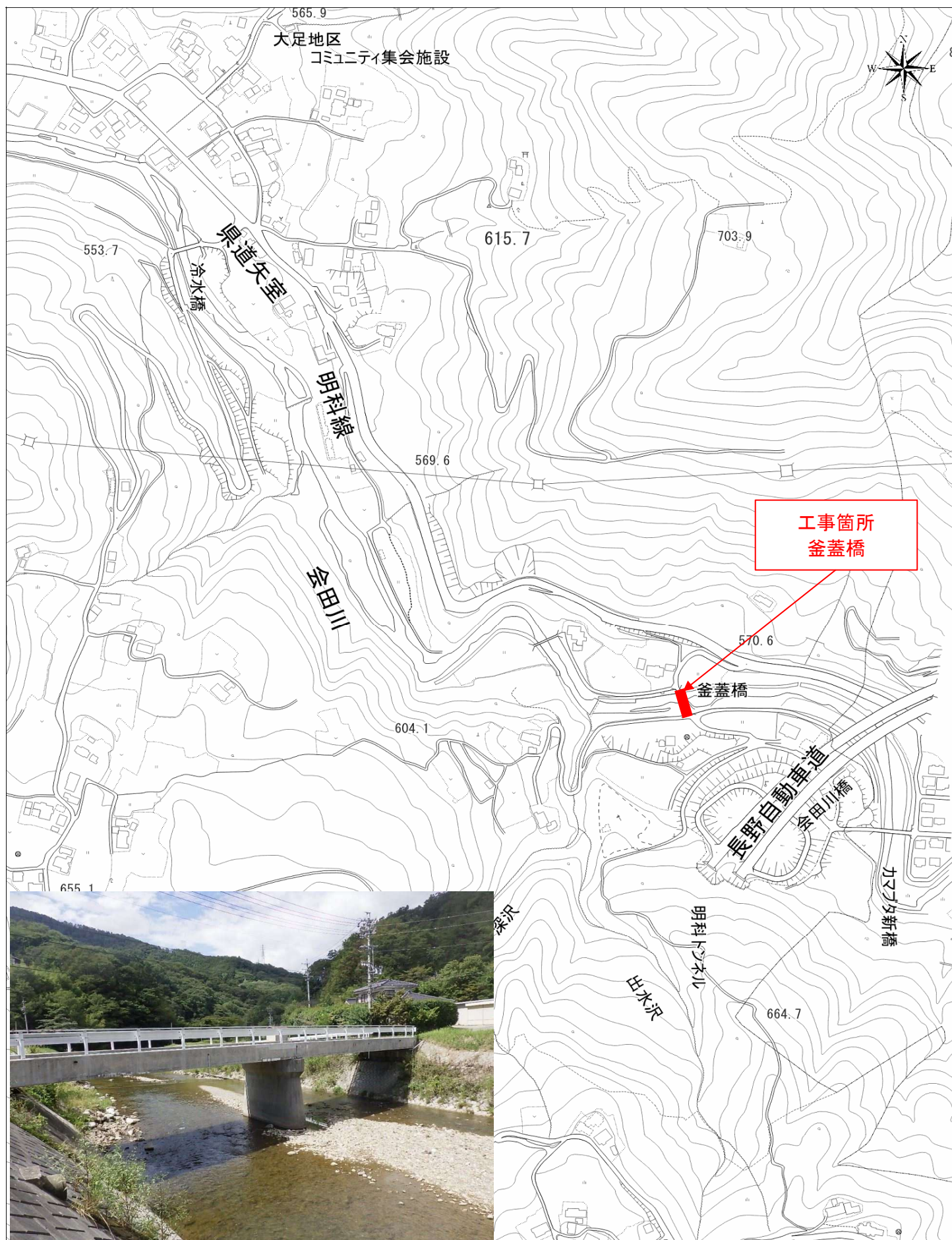
施工 第0 -0010号表

防護工架設供用月数2月

1 m2 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
防護工	1.000	m2			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	m2			
防護工種別：シート張防護工（両側朝顔）			防護工架設供用月数 X 2（月）：2		

位置図



特記仕様書

工事名：令和7年度 道路メンテナンス事業 釜蓋橋補修工事

箇所名：安曇野市 明科中川手

本工事の施工にあたっては指定された図書を参考にし、『安曇野市土木工事共通仕様書』（安曇野市ホームページを参照）の内容に従うとともに、以下の事項について施工条件とする。

1 工事内容

- (1) 工事概要は金抜き設計書のとおりとする。
- (2) 本工事は受注者希望による電子納品の対象工事である。実施にあたっては、「電子納品に係る実施要領」によるものとする。
- (3) 本工事は情報共有システムを利用する対象工事である。利用にあたっては、「情報共有システム実施要領」によるものとする。
- (4) 本工事は週休2日工事の対象工事である。「安曇野市週休2日工事実施要領」に従い取り組むものとする。また、工事契約後、週休2日対象期間において、受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間が生じる場合は、受発注者間で協議して現場閉所による週休2日の対象外とする作業と期間を決定するものとする。
(参考)「安曇野市週休2日工事実施要領」
- (5) 本工事は「ICT活用工事の実施方針」に基づき、ICT技術の活用が可能な建設工事である。実施にあたっては、各工種の「ICT活用工事実施要領（国土交通省）」によるものとする。
(参考)「ICT活用工事の実施方針・実施要領」
- (6) 本工事は、「長野県建設キャリアアップシステム活用工事試行要領」に基づく、建設キャリアアップシステム活用試行工事である。
(参考)「長野県建設キャリアアップシステム活用工事試行要領」
- (7) 上記(2)(5)(6)の実施または活用の希望にあたっては、工事請負契約締結後に安曇野市土木工事共通仕様書別紙-2『実施希望調書』を監督員へ提出し、確認を受けること。

2 工期関係

工期は、雨天・休日等を見込み、工事開始日（契約日）から起算して115日間とする。

なお、休日等には日曜日・祝日・夏期休暇及び年末年始休暇の他、作業期間内の全土曜日を含んでいる。

工期には、施工に必要な実日数（実働日数）以外に以下の事項を見込んでいる。

①準備期間	60日間
②後片付け期間	20日間
③雨休率（実働工期日数に休日と悪天候により作業ができない日数を見込むための係数） 実働日数×係数	0.77

著しい悪天候や気象状況より工程が過去5年度分の気象庁及び環境省の最寄りの観測所のデータより年間の平均発生日数を算出した日数から著しく乖離し、かつ作業を休止せざるを得なかった場合には、受注者は発注者へ工期の延長変更を協議、請求することができる。

3 工程関係

本工事に際し、適切な工程を計画すること。

また、周辺住民、地域関係者に対しては通知・連絡等を必ず実施し、周知すること。

4 発生土・廃棄物関係

- (1) 本工の施工において生じる発生土の処分については処分先を指定し、その他産業廃棄物の処分については処分先を想定して処分費、運搬費を計上している。

なお、発生土の処分に関して、受注者の都合により、指定の処分先によることができない場合については、事前に監督員と変更協議をおこなうこと。

- (2) 建設発生土 【 指定 】

搬出先の名称	処分費	運搬距離	処理施設の所在地等
〇〇	円/m ³	〇〇 km	

上記の搬出先について、原則として変更しない。なお、発注時点で想定していないやむを得ない事情等により、搬出先が変更となった場合は、設計変更の対象とする。

- (3) 特定建設資材廃棄物（建設リサイクル法） 【 参考 】

種 別		処分条件	処分先・運搬距離・数量・金額等				
アスファルト塊		再利用	処理工場名		距離		km
			数 量		t	・ m ³	
コンクリート塊	無筋 Co	再利用	処理工場名	明科建材(株)	距離		5.5 km
			数 量	0.1	t	・ m ³	
	鉄筋 Co	再利用	処理工場名		距離		km
			数 量		t	・ m ³	
	二次 製品	再利用	処理工場名		距離		km
			数 量		t	・ m ³	
建設発生木材			処理工場名		距離		km
			数 量		t	・ m ³	

※処理場名は積算上の条件であり、処理場を指定するものではない。

※排出する対象物が設計寸法と異なる場合は、発注者と協議すること。その際、寸法等を確認できる資料を提出すること。

- (4) 産業廃棄物（建設廃棄物処理指針） 【 参考 】

種 別		処分条件	処分先・運搬距離・数量・金額等			
木くず (抜根・伐採材)		再利用	処理工場名		距離	km
			数 量	t	・ m ³	
汚 泥			処理工場名		距離	km
			数 量	t	・ m ³	
その他（金属くず他）			処理工場名		距離	km
			数 量	t	・ m ³	

※処理場名は積算上の条件であり、処理場を指定するものではない。

※積算に用いる木くず処理量の体積 — 重量換算は、実施設計単価表に記載される換算係数を用いる。なお、体積(m³)での確認となる場合は、体積を確認できるよう1台毎写真管理すること。

※伐採材については、有価売却を検討すること。

建設工事請負契約書において、処分費・運搬費が上記(3)、(4)に明示した金額より低額の場合は、設計変更の対象とする。

5 その他

(1) 関係機関・自治体等との近接協議

関係機関等	事 項	制約内容	時 期
安曇野市 学校教育課	小中学校の通学路確認	関係機関指導のもと	契約後即対応のこと。 また、工期内とする。
小中学校	関係小中学校の通学路に係る周知。各種行事調整。	上記と同様	上記と同様
幼稚園・ 認定こども園	バス運行、通園路などの確認。各種行事調整。	上記と同様	上記と同様
安曇野市 文化課	埋蔵文化財	関係機関指導のもと	契約後即対応のこと。 また、工期内とする。
地元区長など	工事内容、工事期間、迂回路などの説明及び調整。	区長、隣組長など指導のもと	上記と同様
地元市議会議員	工事内容、工事期間、迂回路などの説明。		契約後即対応のこと。
工事沿線住民	工事内容、工事期間、迂回路などの説明及び調整。	関係者等の指導のもと。（ただし、要求内容が無理難題と判断される場合には、断ることも必要である。また、要求内容については監督員へ報告すること。特に工事金額に係る内容は協議を交わすこと。）	契約後即対応のこと。 また、工期内とする。
工事区間内農地所有者又は管理者及び工事影響範囲の利害関係者など	農地については、工事の進捗及び営農上支障になることの調整。その他利害関係者との調整。	上記と同様	上記と同様
周辺店舗、事業所など	駐車場、案内看板などの調整。	上記と同様	上記と同様
N T T	電柱、架空線等の移設調整。 また、本工事事への影響確認。	関係機関指導のもと	上記と同様
中部電力	電柱、架空線等の移設調整。 また、本工事事への影響確認。	上記と同様	上記と同様

あづみ野テレビ	架空線等の移設調整。また、本工事事への影響確認。	上記と同様	上記と同様
穂高自動車 教習所	教習コースの確認	上記と同様	上記と同様
関係官公庁	本工事に係る事	上記と同様	上記と同様
その他	状況に応じて対応すること。	上記と同様	苦情については、即対応のこと。要望については、監督員と協議のうえ対応すること。

(2) 個別事項

- ①品質検査の場所は、別途監督員が指示する場所で行うこと。
- ②不可視部分を施工する際は、監督員に立ち合い確認を求めること。
- ③河川管理者と事前協議すること。
- ④創意工夫については、監督員と協議し、実施内容を完了時まで報告すること。
- ⑤本工事では、現場環境改善に係る経費を当初設計にて計上している。
 - ア 実施する内容については、安曇野市土木工事共通仕様書 別紙ー5の中から原則として各計上費目（仮設備関係、営繕関係、安全関係及び地域連携）ごとに1内容ずつ（いずれか1費目のみ2内容）、合計5つの内容を選択すること。

選択にあたっては、地域の状況や工事内容等により、実施費目数及び実施内容を変更してもよい。
 - イ この経費は率計上されているため、実施する内容が巨額となり、率計上分では行うことが適当ではないと判断される場合は、積上げ計上とする。

積上げ計上分については、事前に監督員と協議すること。
 - ウ この経費の設計変更については、実費精算等の設計変更は行わない。ただし、対象金額の変動に伴う現場環境改善費率の変更は行う。
 - エ 受発注者協議により、内容の実施が不要と判断された場合については、費用の全額を減額する。
 - オ 主に現場の施設や設備に対する熱中症対策・防寒対策に関する費用については、率分の計上ではなく、対策の妥当性を確認の上、積み上げ計上を行うものとする。
- ⑥本工事により亡失した境界杭については、必ず復元を行うこと。また、境界復旧後は、監督員に精度管理表を提出すること。
 - ア 境界復元作業費用は、共通仮設費率（準備費）に含む。
 - イ 境界杭については、現地の物を再利用し復旧することとし、紛失した場合は請負業者の責任において用意すること。
- ⑦その他疑義がある場合には、必要書類等を添えて監督員と協議すること。

令和7年7月1日適用版

資材単価等について

令和7年度 道路メンテナンス事業 釜蓋橋補修工事に係る工事費の積算にあたっては、長野県建設部の「令和7年度実施設計単価表」や積算資料(財団法人経済調査会)及び建設物価(財団法人建設物価調査会)に設定されている単価により予定価格を算出しています。

また、見積もり等による単価は下記のとおりです。

なお、使用した単価は予定価格算出のものであり、特定の製品や民間取引を指定したものではありません。

見積等により決定している設計単価

(四)

[illegible]

橋梁補修工				
名 称	規 格	計 算 式	単位	数 量
ひび割れ補修工				
低圧注入工法	ひび割れ幅0.2～1.0mm未満	別紙図面より	m	166.63
注入材	エポキシ樹脂3種	別紙 低圧注入工法 材料数量表より	kg	22.56
シール材	エポキシ樹脂 比重1.6	//	kg	16.00
注入器	@250mm	//	個	752
断面修復工				
左官工法	ポリマーセメントモルタル	0.024(地覆)+0.00465(橋脚)=0.029	m3	0.029
1月0日				
含浸材塗布	ケイ酸ナトリウム系	81.8(主桁下面)+34.8(橋脚)=116.6	m2	116.6
橋梁地覆補修工				
水切り設置工	FRP水切りR型	別紙図面より	m	56.7
運搬処理工				
コンクリート殻運搬	無筋		m3	0.03
コンクリート殻処分		0.029m3 × 2.3	t	0.07
任意仮設工				
足場(シート張)	TYPE-A1	別紙 仮設足場図(参考)より	m2	179.3
朝顔(シート張)	TYPE-B	別紙 仮設足場図(参考)より	m2	143.5

低圧注入工法 材料数量表

材料：エポキシ樹脂 (第3種適合品) 材料：エポキシ樹脂
 エポキシ樹脂比重＝ 1.15 とする
 注入材ロス率＝ 1.2 とする
 注入器1本当り使用量(g)＝ 25g とする

部位	NO	ひび割れ数量		注入回数 0.2～0.5 1回 0.5越え 2回	注入器の数 @250	注入器1箇所当り 使用量(g) (ロス率含む)	注入材使用量(g) (ロス率含む)	
		幅 W(mm)	長さ L(mm)				エポキシ樹脂	—
A1～P1	1	0.2～0.5	640	1	3	30.0	90.0	
"	2	0.2～0.5	750	1	3	30.0	90.0	
"	3	0.2～0.5	410	1	2	30.0	60.0	
"	4	0.2～0.5	790	1	4	30.0	120.0	
"	5	0.2～0.5	360	1	2	30.0	60.0	
"	6	0.2～0.5	1,580	1	7	30.0	210.0	
"	7	0.2～0.5	770	1	4	30.0	120.0	
"	8	0.2～0.5	360	1	2	30.0	60.0	
"	9	0.2～0.5	320	1	2	30.0	60.0	
"	10	0.2～0.5	390	1	2	30.0	60.0	
"	11	0.2～0.5	370	1	2	30.0	60.0	
"	12	0.2～0.5	1,880	1	8	30.0	240.0	
"	13	0.2～0.5	500	1	2	30.0	60.0	
"	14	0.2～0.5	260	1	2	30.0	60.0	
"	15	0.2～0.5	320	1	2	30.0	60.0	
"	16	0.2～0.5	240	1	1	30.0	30.0	
"	17	0.2～0.5	780	1	4	30.0	120.0	
"	18	0.2～0.5	550	1	3	30.0	90.0	
"	19	0.2～0.5	670	1	3	30.0	90.0	
"	20	0.2～0.5	280	1	2	30.0	60.0	
"	21	0.2～0.5	650	1	3	30.0	90.0	
"	22	0.2～0.5	700	1	3	30.0	90.0	
"	23	0.2～0.5	530	1	3	30.0	90.0	
"	24	0.2～0.5	1,320	1	6	30.0	180.0	
"	25	0.2～0.5	320	1	2	30.0	60.0	
"	26	0.2～0.5	1,330	1	6	30.0	180.0	
"	27	0.2～0.5	5,120	1	21	30.0	630.0	
"	28	0.2～0.5	5,090	1	21	30.0	630.0	
"	29	0.2～0.5	1,280	1	6	30.0	180.0	
"	30	0.2～0.5	1,180	1	5	30.0	150.0	
"	31	0.2～0.5	1,090	1	5	30.0	150.0	
"	32	0.2～0.5	660	1	3	30.0	90.0	
"	33	0.2～0.5	970	1	4	30.0	120.0	
"	34	0.2～0.5	670	1	3	30.0	90.0	
"	35	0.2～0.5	590	1	3	30.0	90.0	
"	36	0.2～0.5	540	1	3	30.0	90.0	
"	37	0.2～0.5	460	1	2	30.0	60.0	
"	38	0.2～0.5	270	1	2	30.0	60.0	
"	39	0.2～0.5	270	1	2	30.0	60.0	
"	40	0.2～0.5	210	1	1	30.0	30.0	
"	41	0.2～0.5	310	1	2	30.0	60.0	
"	42	0.2～0.5	890	1	4	30.0	120.0	
"	43	0.2～0.5	420	1	2	30.0	60.0	
"	44	0.2～0.5	210	1	1	30.0	30.0	
"	45	0.2～0.5	200	1	1	30.0	30.0	
"	46	0.2～0.5	800	1	4	30.0	120.0	
"	47	0.2～0.5	470	1	2	30.0	60.0	
"	48	0.2～0.5	510	1	3	30.0	90.0	
"	49	0.2～0.5	1,680	1	7	30.0	210.0	
"	50	0.2～0.5	290	1	2	30.0	60.0	

低圧注入工法 材料数量表

材料：エポキシ樹脂 (第3種適合品) 材料：エポキシ樹脂
 エポキシ樹脂比重＝ 1.15 とする
 注入材ロス率＝ 1.2 とする
 注入器1本当り使用量(g)＝ 25g とする

部位	NO	ひび割れ数量		注入回数 0.2～0.5 1回 0.5越え 2回	注入器の数 @250	注入器1箇所当り 使用量(g) (ロス率含む)	注入材使用量(g) (ロス率含む)	
		幅 W(mm)	長さ L(mm)				エポキシ樹脂	—
〃	51	0.2～0.5	240	1	1	30.0	30.0	
〃	52	0.2～0.5	3,510	1	15	30.0	450.0	
〃	53	0.2～0.5	1,980	1	8	30.0	240.0	
〃	54	0.2～0.5	1,910	1	8	30.0	240.0	
〃	55	0.2～0.5	950	1	4	30.0	120.0	
〃	56	0.2～0.5	710	1	3	30.0	90.0	
〃	57	0.2～0.5	1,350	1	6	30.0	180.0	
〃	58	0.2～0.5	1,620	1	7	30.0	210.0	
〃	59	0.2～0.5	910	1	4	30.0	120.0	
〃	60	0.2～0.5	940	1	4	30.0	120.0	
〃	61	0.2～0.5	510	1	3	30.0	90.0	
〃	62	0.2～0.5	120	1	1	30.0	30.0	
〃	63	0.2～0.5	1,040	1	5	30.0	150.0	
〃	64	0.2～0.5	1,150	1	5	30.0	150.0	
〃	65	0.2～0.5	200	1	1	30.0	30.0	
〃	66	0.2～0.5	420	1	2	30.0	60.0	
〃	67	0.2～0.5	1,590	1	7	30.0	210.0	
〃	68	0.2～0.5	810	1	4	30.0	120.0	
〃	69	0.2～0.5	490	1	2	30.0	60.0	
〃	70	0.2～0.5	2,790	1	12	30.0	360.0	
〃	71	0.2～0.5	210	1	1	30.0	30.0	
〃	72	0.2～0.5	670	1	3	30.0	90.0	
〃	73	0.2～0.5	2,480	1	10	30.0	300.0	
〃	74	0.2～0.5	840	1	4	30.0	120.0	
〃	75	0.2～0.5	880	1	4	30.0	120.0	
〃	76	0.2～0.5	900	1	4	30.0	120.0	
〃	77	0.2～0.5	700	1	3	30.0	90.0	
〃	78	0.2～0.5	960	1	4	30.0	120.0	
〃	79	0.2～0.5	1,780	1	8	30.0	240.0	
〃	80	0.2～0.5	470	1	2	30.0	60.0	
〃	81	0.2～0.5	730	1	3	30.0	90.0	
〃	82	0.2～0.5	210	1	1	30.0	30.0	
〃	83	0.2～0.5	1,850	1	8	30.0	240.0	
〃	84	0.2～0.5	820	1	4	30.0	120.0	
〃	85	0.2～0.5	1,300	1	6	30.0	180.0	
〃	86	0.2～0.5	540	1	3	30.0	90.0	
〃	87	0.2～0.5	390	1	2	30.0	60.0	
〃	88	0.2～0.5	400	1	2	30.0	60.0	
〃	89	0.2～0.5	480	1	2	30.0	60.0	
〃	90	0.2～0.5	390	1	2	30.0	60.0	
〃	91	0.2～0.5	360	1	2	30.0	60.0	
〃	92	0.2～0.5	790	1	4	30.0	120.0	
〃	93	0.2～0.5	840	1	4	30.0	120.0	
〃	94	0.2～0.5	3,850	1	16	30.0	480.0	
〃	95	0.2～0.5	990	1	4	30.0	120.0	
〃	96	0.2～0.5	4,660	1	19	30.0	570.0	
〃	97	0.2～0.5	3,020	1	13	30.0	390.0	
〃	98	0.2～0.5	1,320	1	6	30.0	180.0	
〃	99	0.2～0.5	680	1	3	30.0	90.0	
〃	100	0.2～0.5	380	1	2	30.0	60.0	

低圧注入工法 材料数量表

材料：エポキシ樹脂 (第3種適合品) 材料：エポキシ樹脂
 エポキシ樹脂比重＝ 1.15 とする
 注入材ロス率＝ 1.2 とする
 注入器1本当り使用量(g)＝ 25g とする

部位	NO	ひび割れ数量		注入回数 0.2～0.5 1回 0.5越え 2回	注入器の数 @250	注入器1箇所当り 使用量(g) (ロス率含む)	注入材使用量(g) (ロス率含む)	
		幅 W(mm)	長さ L(mm)				エポキシ樹脂	—
P1～A2	1	0.2～0.5	170	1	1	30.0	30.0	
"	2	0.2～0.5	470	1	2	30.0	60.0	
"	3	0.2～0.5	8,810	1	36	30.0	1080.0	
"	4	0.2～0.5	880	1	4	30.0	120.0	
"	5	0.2～0.5	420	1	2	30.0	60.0	
"	6	0.2～0.5	520	1	3	30.0	90.0	
"	7	0.2～0.5	2,500	1	10	30.0	300.0	
"	8	0.2～0.5	1,120	1	5	30.0	150.0	
"	9	0.2～0.5	550	1	3	30.0	90.0	
"	10	0.2～0.5	400	1	2	30.0	60.0	
"	11	0.2～0.5	890	1	4	30.0	120.0	
"	12	0.2～0.5	100	1	1	30.0	30.0	
"	13	0.2～0.5	100	1	1	30.0	30.0	
"	14	0.2～0.5	1,900	1	8	30.0	240.0	
"	15	0.2～0.5	730	1	3	30.0	90.0	
"	16	0.2～0.5	1,020	1	5	30.0	150.0	
"	17	0.2～0.5	230	1	1	30.0	30.0	
"	18	0.2～0.5	410	1	2	30.0	60.0	
"	19	0.2～0.5	640	1	3	30.0	90.0	
"	20	0.2～0.5	2,430	1	10	30.0	300.0	
"	21	0.2～0.5	430	1	2	30.0	60.0	
"	22	0.2～0.5	440	1	2	30.0	60.0	
"	23	0.2～0.5	1,220	1	5	30.0	150.0	
"	24	0.2～0.5	2,720	1	11	30.0	330.0	
"	25	0.2～0.5	630	1	3	30.0	90.0	
"	26	0.2～0.5	330	1	2	30.0	60.0	
"	27	0.2～0.5	220	1	1	30.0	30.0	
"	28	0.2～0.5	480	1	2	30.0	60.0	
"	29	0.2～0.5	450	1	2	30.0	60.0	
"	30	0.2～0.5	600	1	3	30.0	90.0	
"	31	0.2～0.5	610	1	3	30.0	90.0	
"	32	0.2～0.5	460	1	2	30.0	60.0	
"	33	0.2～0.5	2,230	1	9	30.0	270.0	
"	34	0.2～0.5	950	1	4	30.0	120.0	
"	35	0.2～0.5	790	1	4	30.0	120.0	
"	36	0.2～0.5	490	1	2	30.0	60.0	
"	37	0.2～0.5	550	1	3	30.0	90.0	
"	38	0.2～0.5	360	1	2	30.0	60.0	
"	39	0.2～0.5	710	1	3	30.0	90.0	
"	40	0.2～0.5	1,630	1	7	30.0	210.0	
"	41	0.2～0.5	1,700	1	7	30.0	210.0	
"	42	0.2～0.5	1,770	1	8	30.0	240.0	
"	43	0.2～0.5	2,280	1	10	30.0	300.0	
"	44	0.2～0.5	560	1	3	30.0	90.0	
"	45	0.2～0.5	750	1	3	30.0	90.0	
"	46	0.2～0.5	1,130	1	5	30.0	150.0	
"	47	0.2～0.5	500	1	2	30.0	60.0	
"	48	0.2～0.5	280	1	2	30.0	60.0	
"	49	0.2～0.5	280	1	2	30.0	60.0	
"	50	0.2～0.5	1,390	1	6	30.0	180.0	
"	51	0.2～0.5	850	1	4	30.0	120.0	
"	52	0.2～0.5	2,360	1	10	30.0	300.0	
"	53	0.2～0.5	200	1	1	30.0	30.0	

低圧注入工法 材料数量表

材料：エポキシ樹脂 (第3種適合品) 材料：エポキシ樹脂
 エポキシ樹脂比重＝ 1.15 とする
 注入材ロス率＝ 1.2 とする
 注入器1本当り使用量(g)＝ 25g とする

部位	NO	ひび割れ数量		注入回数 0.2～0.5 1回 0.5越え 2回	注入器の数 @250	注入器1箇所当り 使用量(g) (ロス率含む)	注入材使用量(g) (ロス率含む)	
		幅 W(mm)	長さ L(mm)				エポキシ樹脂	—
P1(A1)	1	0.2～0.5	320	1	2	30.0	60.0	
"	2	0.2～0.5	150	1	1	30.0	30.0	
"	3	0.2～0.5	390	1	2	30.0	60.0	
"	4	0.2～0.5	680	1	3	30.0	90.0	
"	5	0.2～0.5	1,110	1	5	30.0	150.0	
"	6	0.2～0.5	1,150	1	5	30.0	150.0	
"	7	0.2～0.5	530	1	3	30.0	90.0	
"	8	0.2～0.5	130	1	1	30.0	30.0	
"	9	0.2～0.5	270	1	2	30.0	60.0	
"	10	0.2～0.5	200	1	1	30.0	30.0	
P1(A2)	1	0.2～0.5	340	1	2	30.0	60.0	
"	2	0.2～0.5	450	1	2	30.0	60.0	
"	3	0.2～0.5	410	1	2	30.0	60.0	
"	4	0.2～0.5	90	1	1	30.0	30.0	
"	5	0.2～0.5	790	1	4	30.0	120.0	
"	6	0.2～0.5	230	1	1	30.0	30.0	
"	7	0.2～0.5	150	1	1	30.0	30.0	
"	8	0.2～0.5	310	1	2	30.0	60.0	
"	9	0.2～0.5	1,460	1	6	30.0	180.0	
"	10	0.2～0.5	280	1	2	30.0	60.0	
"	11	0.2～0.5	150	1	1	30.0	30.0	
"	12	0.2～0.5	330	1	2	30.0	60.0	
"	13	0.2～0.5	490	1	2	30.0	60.0	
"	14	0.2～0.5	740	1	3	30.0	90.0	
"	15	0.2～0.5	230	1	1	30.0	30.0	
"	16	0.2～0.5	430	1	2	30.0	60.0	
"	17	0.2～0.5	770	1	4	30.0	120.0	
"	18	0.2～0.5	1,030	1	5	30.0	150.0	
小計			166,630		752		22,560	

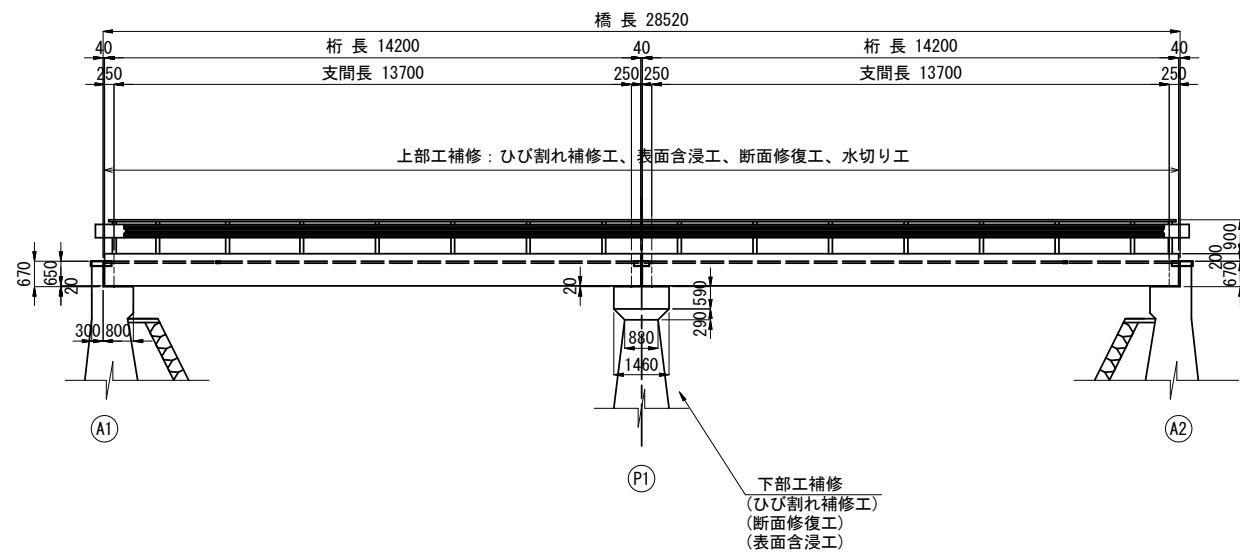
集 計 表

部材	延べ施工量 (m)	注入材使用量(kg)		シーラ材 (kg)	低圧注入器具 (個)
		エポキシ樹脂	—		
A1～P1	98.38	13.29		9.444	443
P1～A2	54.64	7.23		5.245	241
P1(A1)	4.93	0.75		0.473	25
P1(A2)	8.68	1.29		0.833	43
合計	166.63	22.56	—	16.00	752

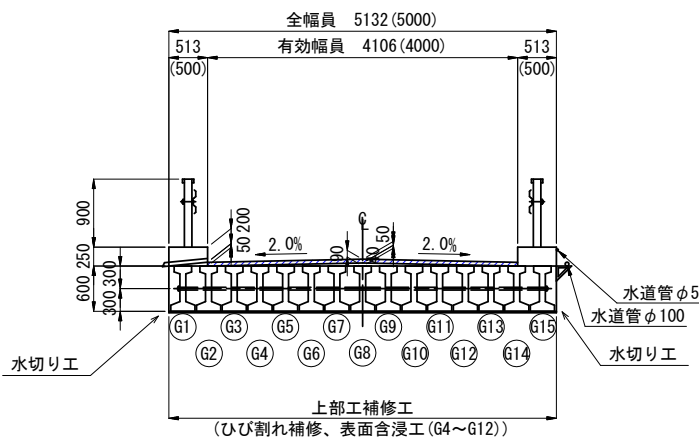
※ シーラ材： W(kg) = 幅30(mm) × 厚2(mm) × 施工延長L(m) × 比重1.6

釜蓋橋 補修一般図

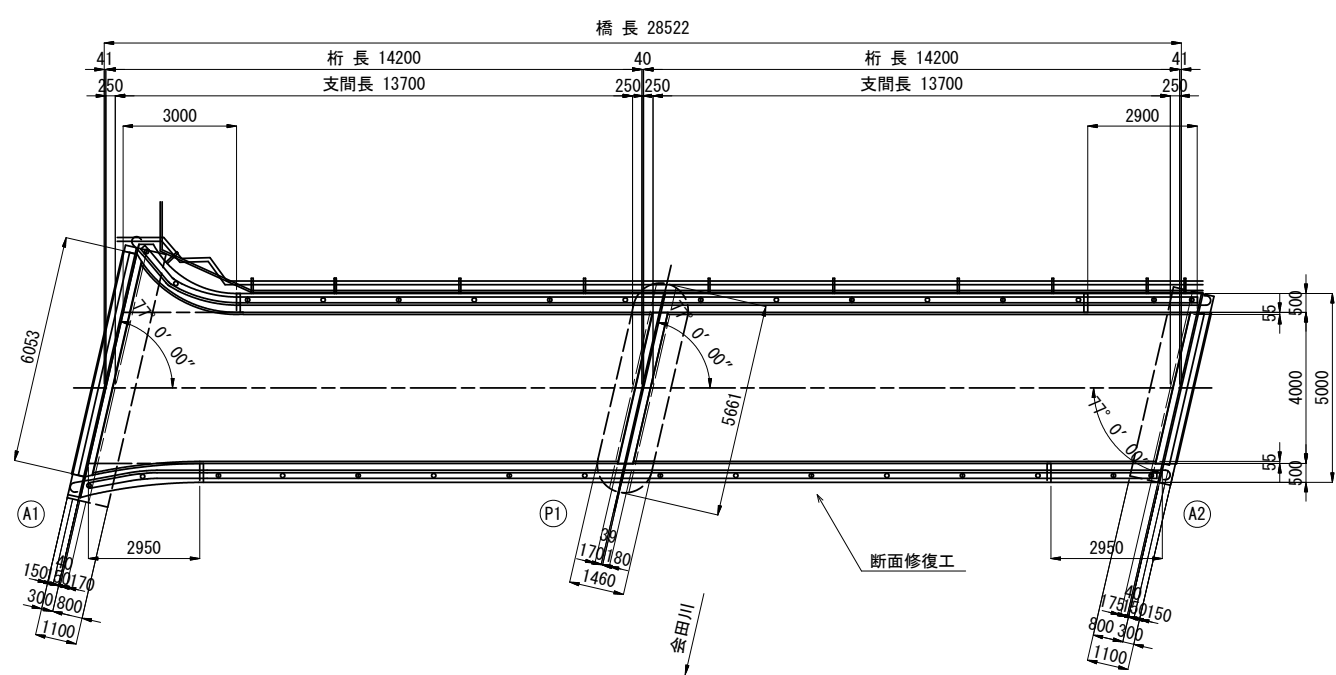
側面図 S=1:100



断面図 S=1:50



平面図 S=1:100



補修数量表

補修工種	補修工法・仕様等	補修対象箇所
① 地覆	断面修復工	地覆（下流側）
	水切り工	地覆（両側）
② 主桁下面	ひび割れ注入工	G1~G15
	表面含浸工	G4~G12
③ 橋脚	ひび割れ注入工	P1
	断面修復工	P1
	表面含浸工	P1

実施図

令和7年度 道路メンテナンス事業			
釜蓋橋補修工事			
番号	1/6	補修一般図	縮尺 図示
釜蓋橋			
安曇野市 明科中川手			
設計会社			
測量会社			
調査会社			
安曇野市 都市建設部 維持管理課			
現場制約事項			
有り	無し		

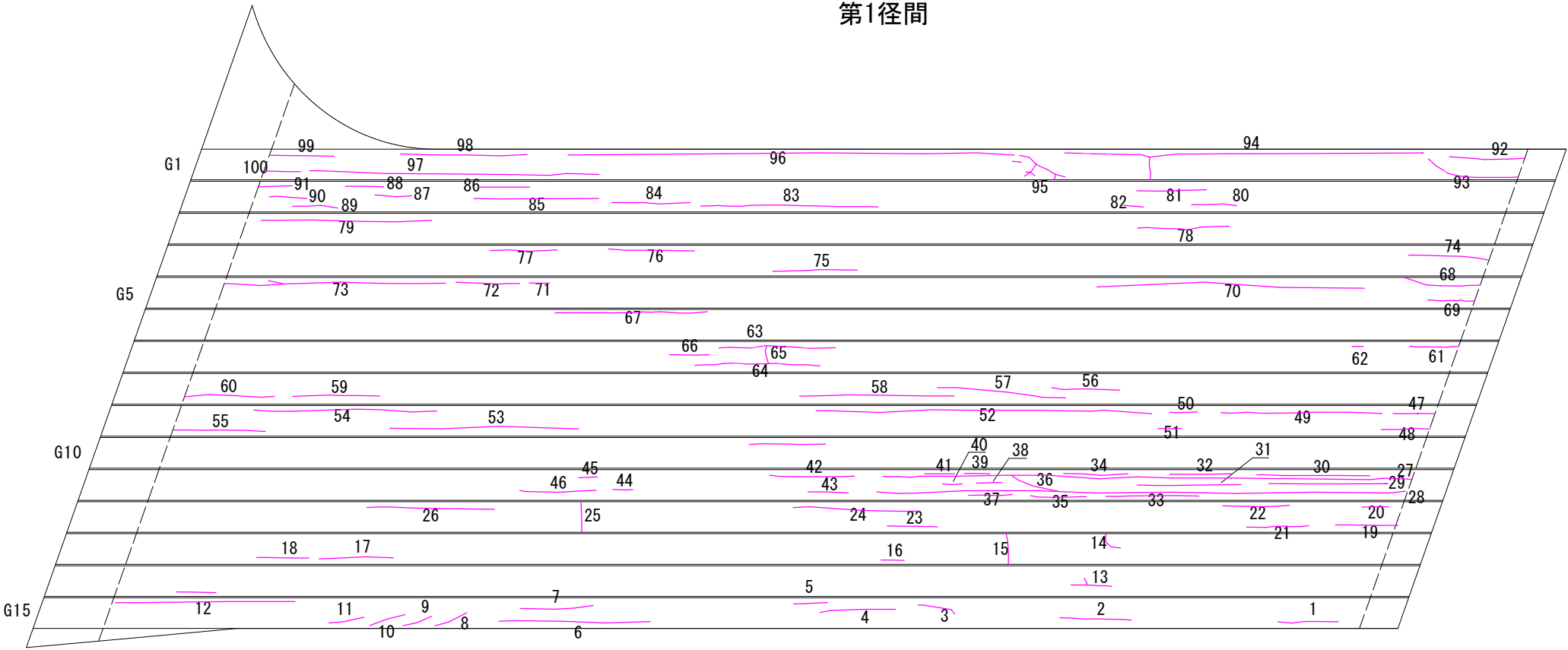
注記)
1. 本図面は既往資料及び現地計測結果を元に作成しているが、一部推定の箇所もあることから、使用の際は注意すること。
2. 補修工事に先立って、必ず現地計測を行い、現地状況を確認すること。
3. 必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で、施工を行うこと。
また、必要に応じて変更等の見直しを行うこと。

釜蓋橋 補修図 (1)

平面図 S=1:30

床版下面 ひび割れ補修図

第1径間



番号	延長 (mm)
1	640
2	750
3	410
4	790
5	360
6	1,580
7	770
8	360
9	320
10	390
11	370
12	1,880
13	500
14	260
15	320
16	240
17	780
18	550
19	670
20	280
21	650
22	700
23	530
24	1,320
25	320
26	1,330
27	5,120
28	5,090
29	1,280
30	1,180
31	1,090
32	660
33	970
34	670
35	590
36	540
37	460
38	270
39	270
40	210
41	310
42	890
43	420
44	210
45	200
46	800
47	470
48	510
49	1,680
50	290

番号	延長 (mm)
51	240
52	3,510
53	1,980
54	1,910
55	950
56	710
57	1,350
58	1,620
59	910
60	940
61	510
62	120
63	1,040
64	1,150
65	200
66	420
67	1,590
68	810
69	490
70	2,790
71	210
72	670
73	2,480
74	840
75	880
76	900
77	700
78	960
79	1,780
80	470
81	730
82	210
83	1,850
84	820
85	1,300
86	540
87	390
88	400
89	480
90	390
91	360
92	790
93	840
94	3,850
95	990
96	4,660
97	3,020
98	1,320
99	680
100	380
合計	98,380

※幅 (mm) は一律0.2～0.5mmとする。

A1

P1

- 注記)
1. 本図面は既往資料及び現地計測結果を元に作成しているが、一部推定の箇所もあることから、使用の際は注意すること。
 2. 補修工事に先立って、必ず現地計測を行い、現地状況を確認すること。
 3. 必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で、施工を行うこと。
また、必要に応じて変更等の見直しを行うこと。

実施図

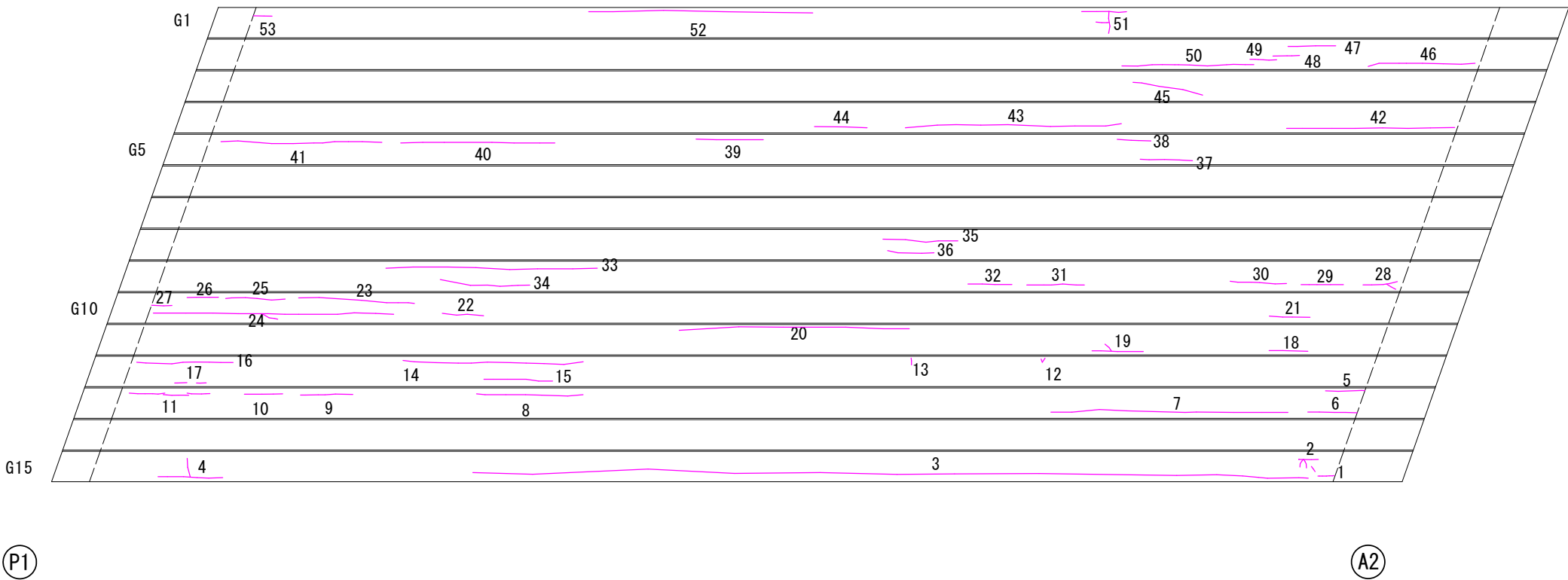
令和7年度 道路メンテナンス事業			
釜蓋橋補修工事			
番号	2/6	補修図(1)	縮尺 図示
釜蓋橋			
安曇野市 明科中川手			
設計会社			
測量会社			
調査会社			
安曇野市 都市建設部 維持管理課			
現場制約事項			
有り	無し		

釜蓋橋 補修図 (2)

平面図 S=1:30

床版下面 ひび割れ補修図

第2径間



番号	延長 (mm)
1	170
2	470
3	8,810
4	880
5	420
6	520
7	2,500
8	1,120
9	550
10	400
11	890
12	100
13	100
14	1,900
15	730
16	1,020
17	230
18	410
19	640
20	2,430
21	430
22	440
23	1,220
24	2,720
25	630
26	330
27	220
28	480
29	450
30	600
31	610
32	460
33	2,230
34	950
35	790
36	490
37	550
38	360
39	710
40	1,630
41	1,700
42	1,770
43	2,280
44	560
45	750
46	1,130
47	500
48	280
49	280
50	1,390
51	850
52	2,360
53	200
合計	54,640

※幅 (mm) は一律0.2～0.5mmとする。

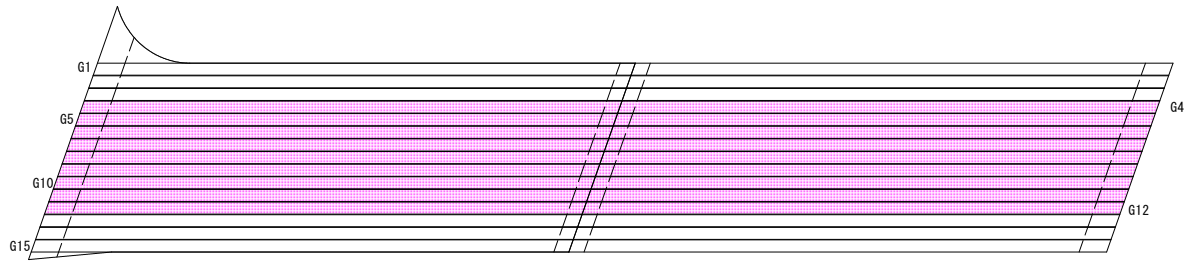
実施図

令和7年度 道路メンテナンス事業			
釜蓋橋補修工事			
番号	3/6	補修図(2)	縮尺 図示
釜蓋橋			
安曇野市 明科中川手			
設計会社			
測量会社			
調査会社			
安曇野市 都市建設部 維持管理課			
現場制約事項			
有り	無し		

注記)
1. 本図面は既往資料及び現地計測結果を元に作成しているが、一部推定の箇所もあることから、使用の際は注意すること。
2. 補修工事に先立って、必ず現地計測を行い、現地状況を確認すること。
3. 必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で、施工を行うこと。
また、必要に応じて変更等の見直しを行うこと。

釜蓋橋 補修図 (3)

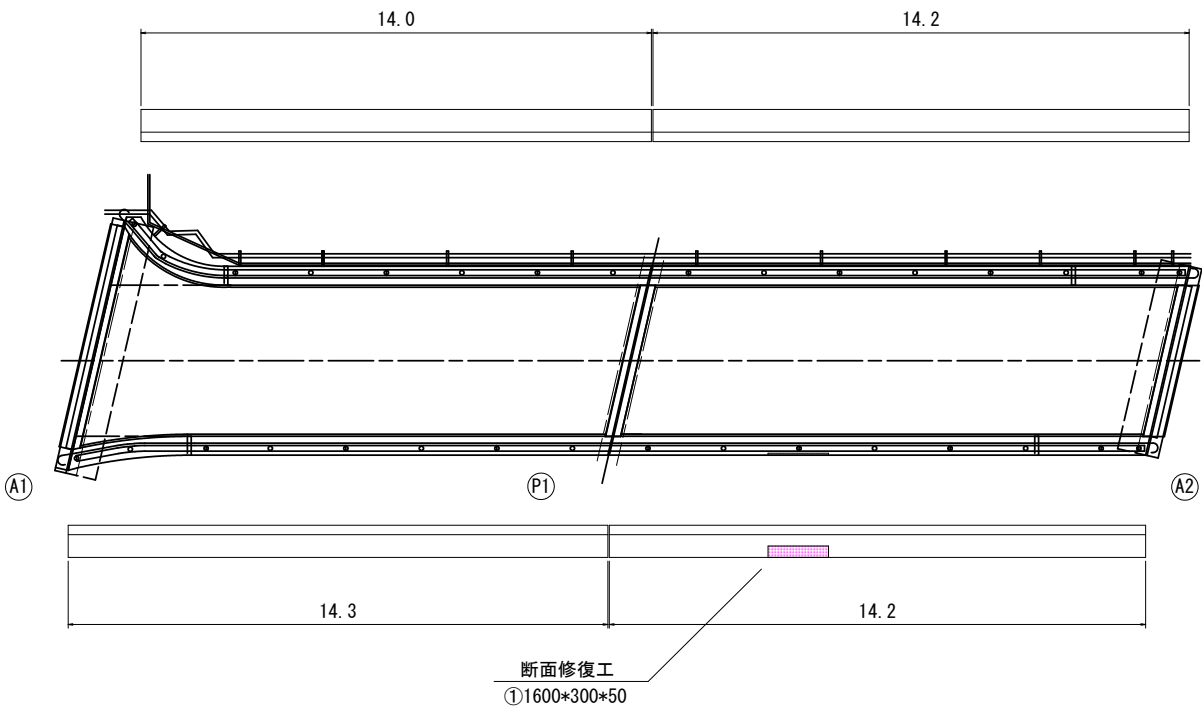
表面含浸工
平面図 S=1:100
主桁下面 G4~G12



表面含浸工 $A = 14.2\text{m} \times 0.32\text{m} \times 2 \times 9\text{本} = 81.79\text{m}^2$

地覆補修工

平面図、側面図 S=1:100



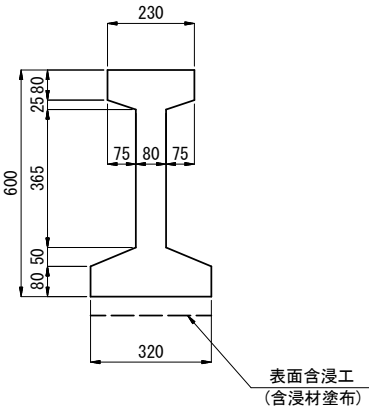
水切り工延長

$14.0\text{m} + 14.2\text{m} + 14.3\text{m} + 14.2\text{m} = 56.7\text{m} \approx 57\text{m}$

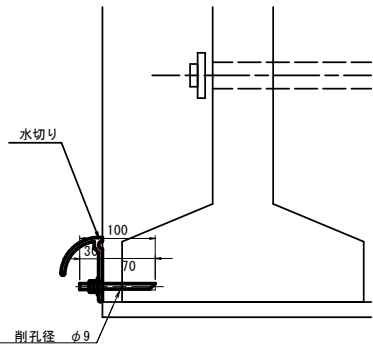
断面修復工集計表

	幅	長	深	体積
1	1600	300	50	1.6*0.3*0.05
			小計	0.024

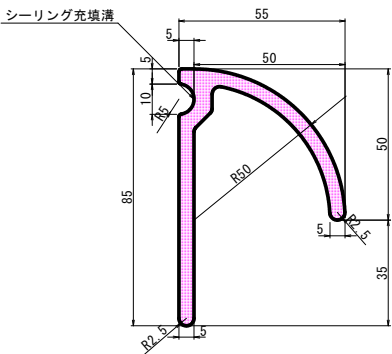
主桁断面詳細図 S=1:10



水切り詳細図 S=1:5



水切り断面図



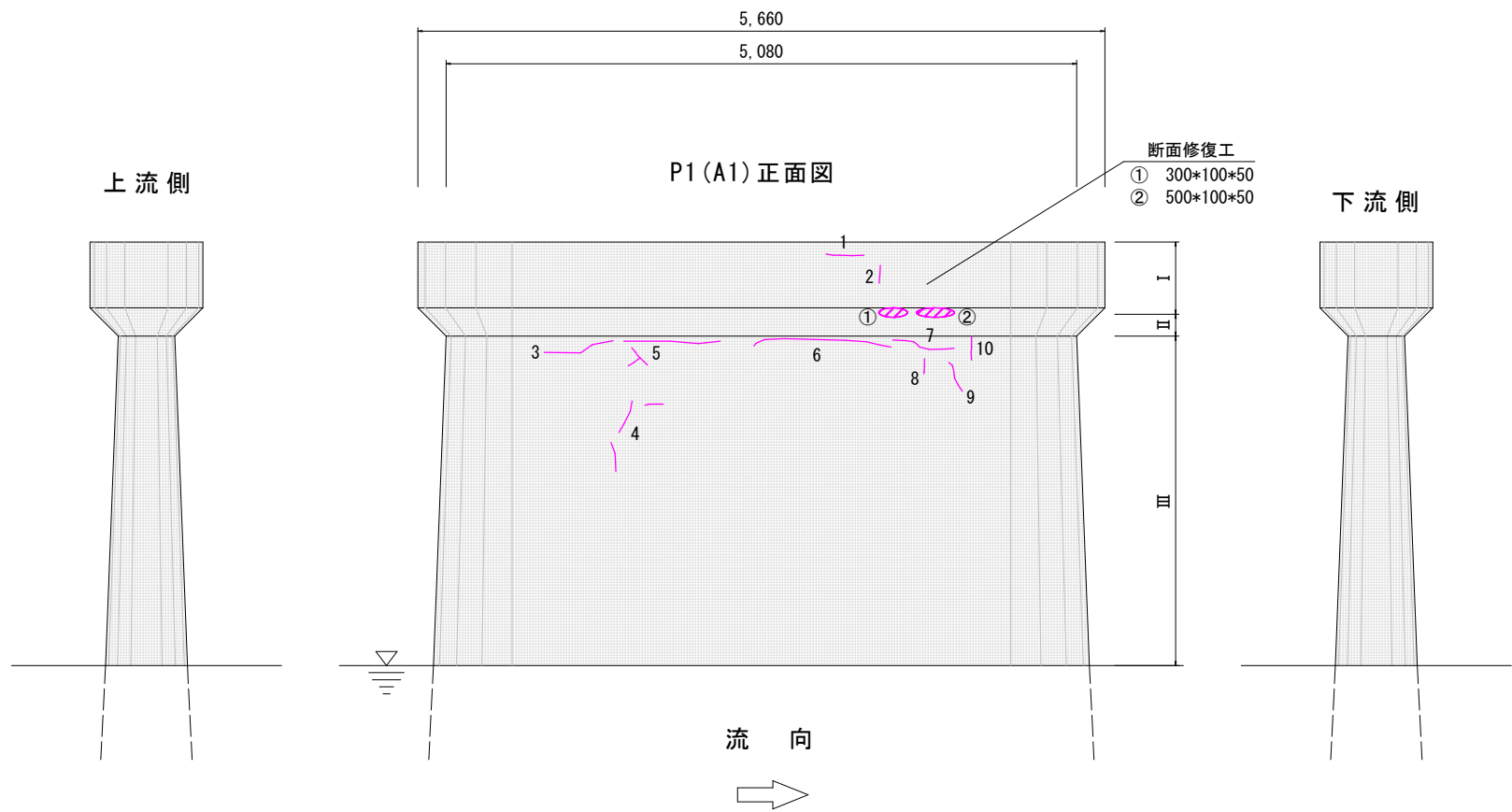
実施図

令和7年度 道路メンテナンス事業			
釜蓋橋補修工事			
番号	4/6	補修図(3)	縮尺 図示
釜蓋橋			
安曇野市 明科中川手			
設計会社			
測量会社			
調査会社			
安曇野市 都市建設部 維持管理課			

現場制約事項	
有り	無し

- 注記)
- 補修工事に先立って、必ず現地計測を行い現地状況を確認すること。
 - 必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で、施工を行うこと。

釜蓋橋 補修図 (4)



ひび割れ補修工集計表

P1 (A1) 側	
番号	延長 (mm)
1	320
2	150
3	390
4	680
5	1,110
6	1,150
7	530
8	130
9	270
10	200
合計	4,930

P1 (A2) 側	
番号	延長 (mm)
1	340
2	450
3	410
4	90
5	790
6	230
7	150
8	310
9	1,460
10	280
11	150
12	330
13	490
14	740
15	230
16	430
17	770
18	1,030
合計	8,680

断面修復工集計表

P1 (A1) 側					
番号	幅	長	深		体積
1	300	100	50	0.3*0.1*0.05	0.0015
2	500	100	50	0.5*0.1*0.05	0.0025
			小計		0.004

P1 (A2) 側					
番号	幅	長	深		体積
1	130	100	50	0.13*0.1*0.05	0.00065
			小計		0.00065
合計					0.00465

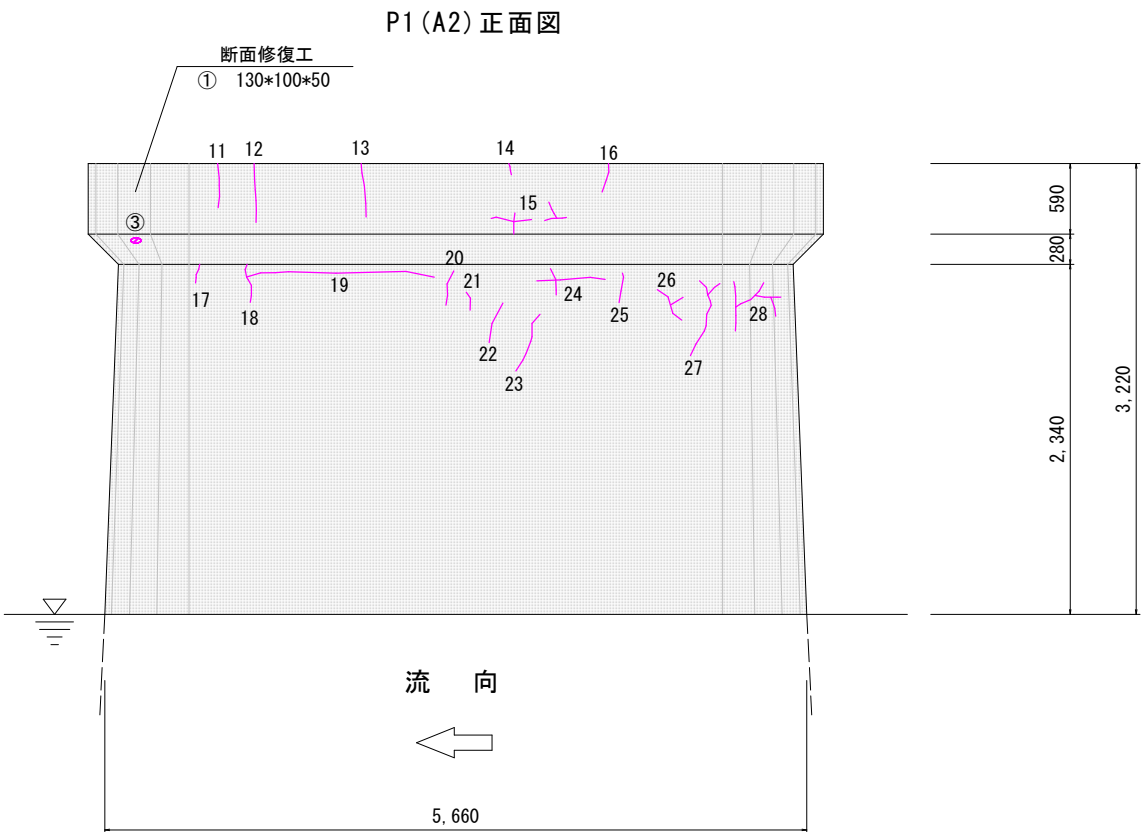
表面含浸工集計表

I 5.66 * 0.59 = 3.3 m2

II (5.08 + 5.66) / 2 * 0.28 = 1.5 m2

III (5.08 + 5.66) / 2 * 2.34 = 12.6 m2

合計 3.3 + 1.5 + 12.6 = 17.4 * 2 = 34.8 m2



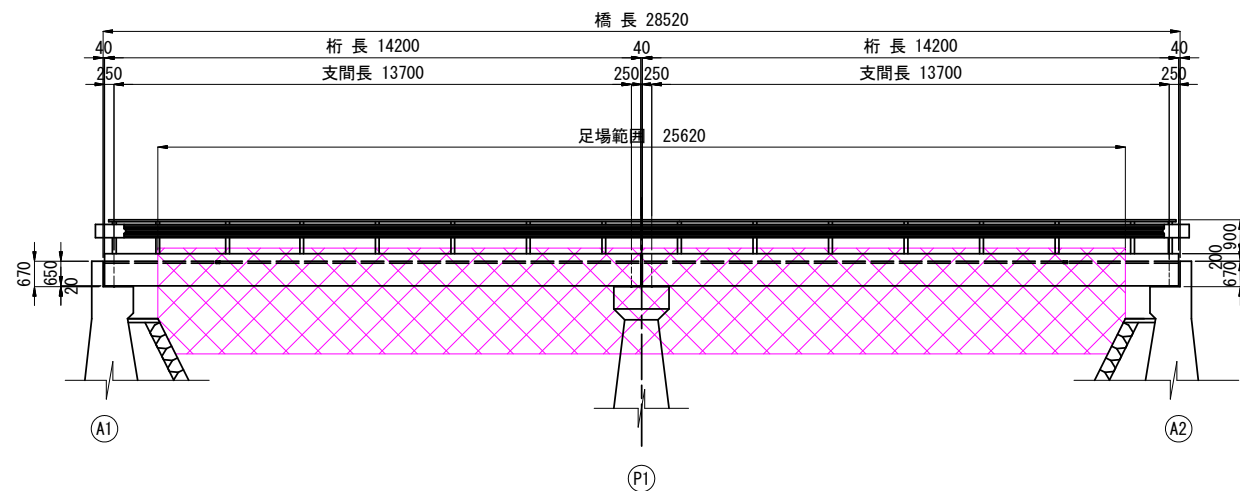
- 注記)
- 本図面は既往資料及び現地計測結果を元に作成しているが、一部推定の箇所もあることから、使用の際は注意すること。
 - 補修工事に先立って、必ず現地計測を行い、現地状況を確認すること。
 - 必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で、施工を行うこと。
また、必要に応じて変更等の見直しを行うこと。
 - 補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
 - 断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
 - 断面修復の際は、鉄筋露出部は既設鉄筋に防錆処理を施すこと。
 - 損傷部の補修に際しては、施工の確実性(既設部との付着面積の確保)より、幅50mm×長さ50mm、最小30mmの修復厚を確保するものとした。

実施図

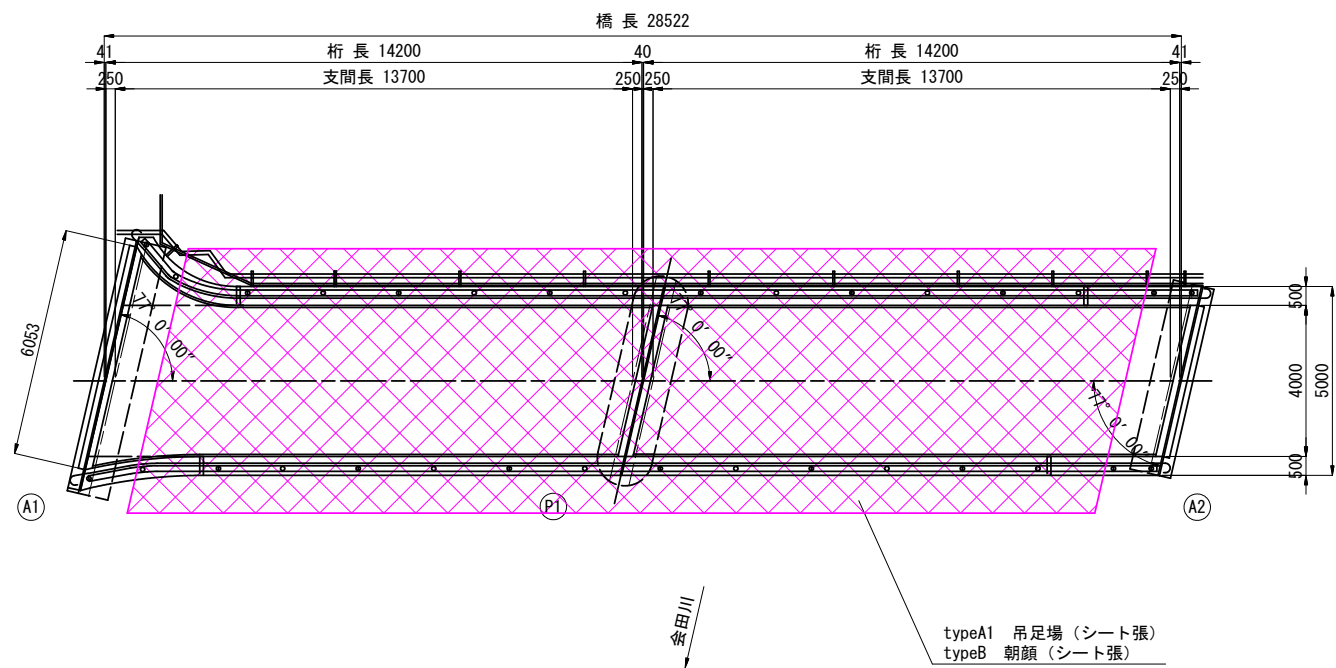
令和7年度 道路メンテナンス事業			
釜蓋橋補修工事			
番号	5/6	補修図(4)	縮尺 図示
釜蓋橋			
安曇野市 明科中川手			
設計会社			
測量会社			
調査会社			
安曇野市 都市建設部 維持管理課			
現場制約事項			
有り	無し		

釜蓋橋 仮設足場図（参考）

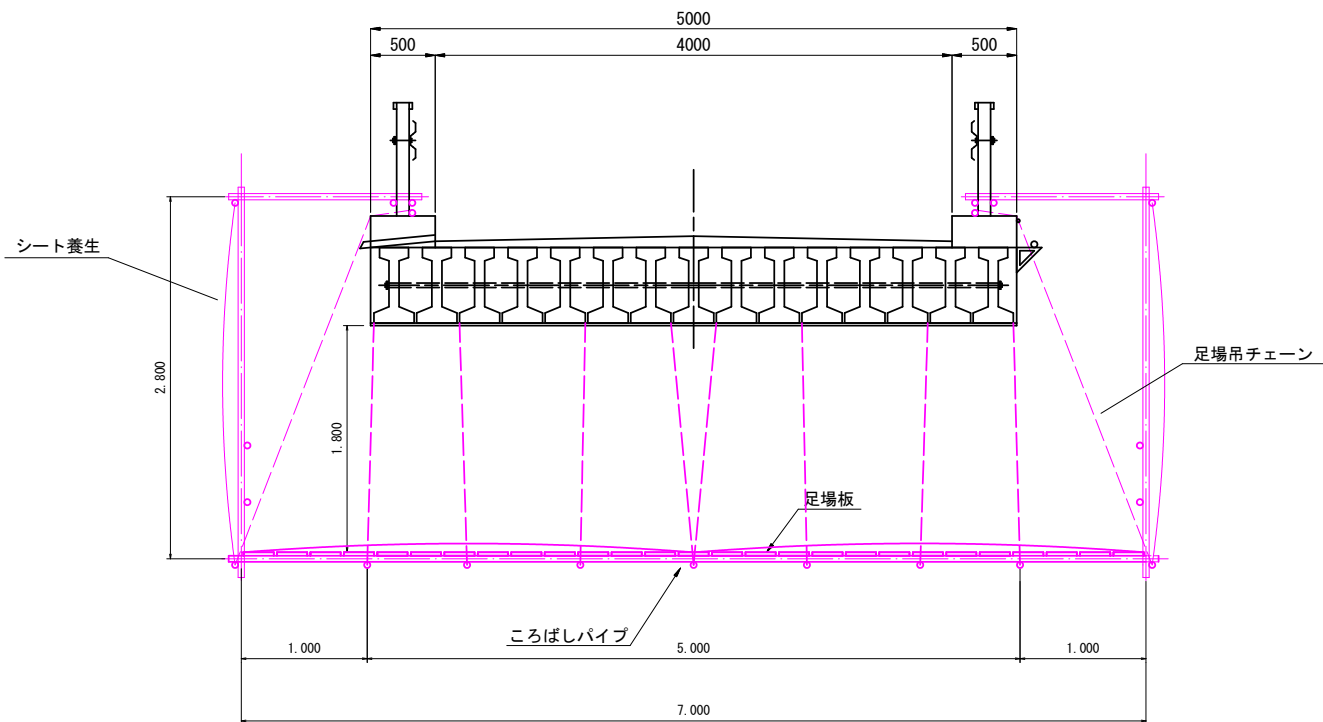
側面図 S=1:100



平面図 S=1:100



断面図 S=1:30



数量表

項目	規格/仕様/寸法	計算式	単位	数量
足場面積	typeA1 吊足場（シート張）	$25.62 \times 7.0 = 179.3$	m2	179
	typeB 朝顔（シート張）	$25.62 \times 2.8 \times 2 = 143.5$	m2	144

- 注記）
- 本図は参考図である。
 - 足場設置においては、現地状況及び作業性を考慮し配置すること。
 - 本図に示す単管間隔及び高さ等は参考である。
 - 足場工は、吊足場を基本とする。

実施図

令和7年度 道路メンテナンス事業					
釜蓋橋補修工事					
番号	6/6	仮設足場図(参考)		縮尺	図示
釜蓋橋					
安曇野市 明科中川手					
設計会社					
測量会社					
調査会社					
安曇野市 都市建設部 維持管理課					
現場制約事項					
有り	無し				